



Facebook



Twitter

卒業生93人が旅立ち 中九州短期大学 学位記授与式



▲学位記を受け取る卒業生

3月19日、中九州短期大学で学位記授与式があり、留学生7人を含む卒業生93人が学び舎を巣立ちました。

今年度の卒業生計93人。同大学では過去14年間に渡りカンボジアのプノンペン大学との交流があり、中九州短期大学の経営福祉学科で学んだ留学生5人もこの卒業を迎えました。

卒業後、市内の介護福祉施設に勤務するドウオン・スミットニモールさん（カンボジア出身）は「日本でたくさん学んで、将来はカンボジアで活躍したい」と意気込みました。

事務・経理の代行会社が八代に 「株式会社お金の家庭教師」開所式



▲関係者らによるテープカット

昨年11月27日に本市と立地協定を締結した株式会社お金の家庭教師が3月19日、本町一丁目アーケード内に八代オフィスを開所しました。

同社は平成20年創業のベンチャー企業でコンサルティング向け事務代行サービス、中小企業の管理部門の支援サービスなどを行っており、今回が初のオフィス開設です。

開所式で木村仁哉代表取締役が「書類や商品の代行発送などの業務の拠点とします」と話すと中村博生市長は「中心市街地の活性化につながることを期待しています」と話しました。

オリンピックを盛り上げる 競技別ピンバッジの贈呈



▲縦66cm、横49cmの額縁に入ったピンバッジを渡す山田支店長（左）

3月16日、ユカ・コーラボトラーズジャパン（株）八代支店の山田竜也支店長、守田康宏営業マネジャーが市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に東京2020オリンピック競技別ピンバッジを贈呈しました。

ピンバッジの贈呈は、本市が昨年全国に先駆けて「聖火リレーメモリアル自販機」を市内に12台設置したことがきっかけで実現。南九州では初めて本市に贈呈されました。

中村市長は「貴重なものをありがとうございます」とお礼を述べました。

本市2例目の保育園の民営化 八代市立白島ぎんが保育園の引継式



▲協定書を手にする坂田理事長（左から2番目）と中村市長（中央）

白島ぎんが保育園の民間移譲に伴い、4月1日から業務を引き継ぐことになった社会福祉法人しらぬい会と市との引継式が3月26日に市役所鏡支所で行われました。

同保育園は昭和35年に開設され、定員は45人。本市の保育園が民営化されるのは2例目です。

中村博生市長は「市と連携しながら八代っ子を育ててください」と話すと、坂田四方治理事長は「約60年の歴史がある保育園を引き継ぐの身が引き締まる思いですが、頑張っていきたい」と抱負を述べました。

資源循環型社会を目指す 菌ちゃん食育活動冊子の贈呈



▲次世代のためにがんぼろ会の皆さんと中村市長（中央）

3月26日、市役所鏡支所で次世代のためにがんぼろ会から「菌ちゃん食育活動」の冊子200冊が中村博生市長に贈呈されました。

同会は、市内の保育園で子どもたちと生ごみを堆肥にして野菜を作る活動を行っており、その活動内容を冊子にしました。

同会の松浦ゆかり代表は「生ごみ堆肥を子どもたちの食育に生かしていきたい」と話すと、中村市長は「この冊子は保護者が読んでも勉強になると思います。食育の大事さをもっと広めていきたい」とお礼を述べました。

子どもたちの交通安全のために 新小学1年生へのクリアファイル贈呈式



▲森田部長（左）と北岡教育長（右）

3月19日、ヤマハ熊本プロダクツの森田正和取締役製造部長らが市役所千丁支所を訪れ、交通安全クリアファイル1095枚を北岡博教育長に贈呈しました。

これは、同社が八代地域の交通安全活動に貢献したいとの思いから、市内の新小学1年生を対象に道路標識が記載されたクリアファイルを毎年寄贈しているもので、今年で10回目です。

森田部長が「ファイルで交通標識を勉強して通学してほしい」と話すと、北岡教育長は「ありがとうございます」とお礼を述べました。



弁当を食べて地元飲食店を応援 春のテイクアウトランチ祭り



▲連日即完売の大盛況でした

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う外食自粛などにより、来店客が激減している市内の飲食店を応援しようと、「BUY LOCAL Yatsushiro」プロジェクト実行委員会「の呼び掛けで集まった団体などが協力し、飲食店の持ち帰り特製弁当を販売するイベントを4月1日から7日までやつしろハーモニーホールで開催しました。

参加した各飲食店は、新型コロナウイルス感染防止に細心の注意を払って、から揚げ、焼き、カレー弁当などを販売しました。

熊本を代表する力士に 高野弘成さんが木瀬部屋へ入門



▲左から木瀬親方、高野さん、中村市長

4月から大相撲の木瀬部屋へ入門する高野弘成さん（第四中学校出身）が3月30日、木瀬親方（元幕内肥後ノ海）と共に市役所鏡支所を訪れ、中村博生市長に入門を報告しました。

高野さんは、第四中学校卒業後は相撲の名門鳥取城北高校に進学。得意の押し相撲を生かし、2年時の全国大会で団体2位、3年時の全国大会で団体3位、中国大会個人無差別級で優勝するなど素晴らしい成績を残しました。

高野さんは「まずは十両を目指して頑張りたい」と意気込みました。

黄色い帽子をかぶって元気に登校 黄色い帽子贈呈式



▲帽子を受け取った新小学1年生の4人

3月27日、市役所鏡支所で八代地区交通安全協会から今年市内の小学校に入学する児童1068人分の黄色い帽子を贈呈する目録が中村博生市長に手渡されました。

同会の「黄色い帽子」贈呈は、平成12年から始められ、今年で21回目です。

同会の三浦賢治会長が「安全のために黄色い帽子をかぶって登下校してください」と真新しい黄色い帽子を、つるまる保育園の園児4人にかぶせると、園児たちは「ありがとうございます」と大きな声でお礼を述べました。

耳や言葉が不自由な人のために 電話お願い手帳贈呈式



▲前田支店長（左）と中村市長（右）

4月8日、NTT西日本熊本支店の前田仁支店長らが市役所鏡支所を訪れ、電話お願い手帳80冊を中村博生市長へ手渡しました。

電話お願い手帳とは耳や言葉が不自由な人が電話をかける、道を確認するなど、必要ときに周りの人へしてほしいことを伝えるための手帳です。

中村市長は「毎年寄贈いただきありがとうございます」と話すと、前田支店長は「スマートフォンに対応したウェブ版もあるので、ぜひ多くの人に利用してほしい」と話しました。

九州の自治体で初の締結 包括的連携に関する協定書調印式



▲協定を締結した沼田理事長（左）と中村市長（右）

4月6日、市役所鏡支所で全国の信用金庫でつくる「よい仕事おこしフェア実行委員会」と本市が包括的連携に関する協定書を九州の自治体で初めて締結しました。

この協定により、地域の中小企業のさまざまな経営課題の解決支援、地域の枠を超えた活性化が期待されます。

熊本中央信用金庫の沼田雄一理事長が「企業の技術や商品を発信していきたい」と話すと、中村博生市長は「地域活性化の取り組みを加速させたい」と述べました。

大人も子どももアサリに夢中 鏡町北新地海岸のアサリ潮干狩りが解禁



▲今日の晩御飯が楽しみだな

4月6日、鏡町北新地海岸一帯で、毎年恒例となったアサリの潮干狩りが解禁されました。

海岸には、この日を待ちわびていた地元の高齢者から家族連れまで、およそ800人が4カ所の養殖場に分散し、熊手などを使って泥だらけになりながら干潟を掘り起こし、アサリ取りを楽しみました。

毎年親子で参加しているという永松杏那さん（文政小2年）は「久しぶりのイベントで楽しかった。アサリ料理の中では蒸し焼きが一番好き」と笑顔で話しました。